

## 第5章 印刷装置への出力

本章では、ユーザー・データ、書式、記号などを合成して印刷装置へ出力する方法について説明します。

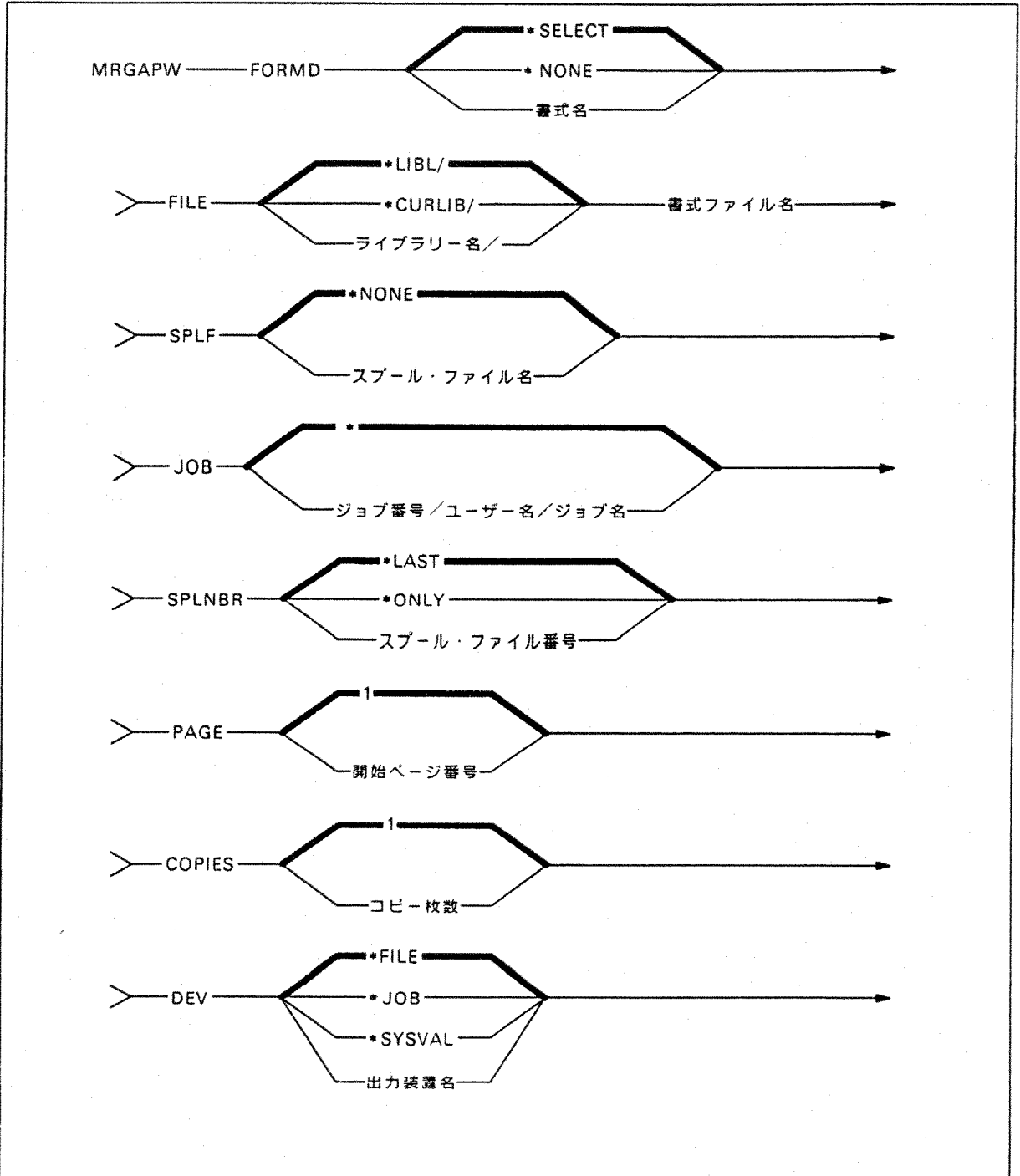
なお、実際に印刷する前に、「11.2. 『印刷装置に出力する際の考慮点』」を読んでください。

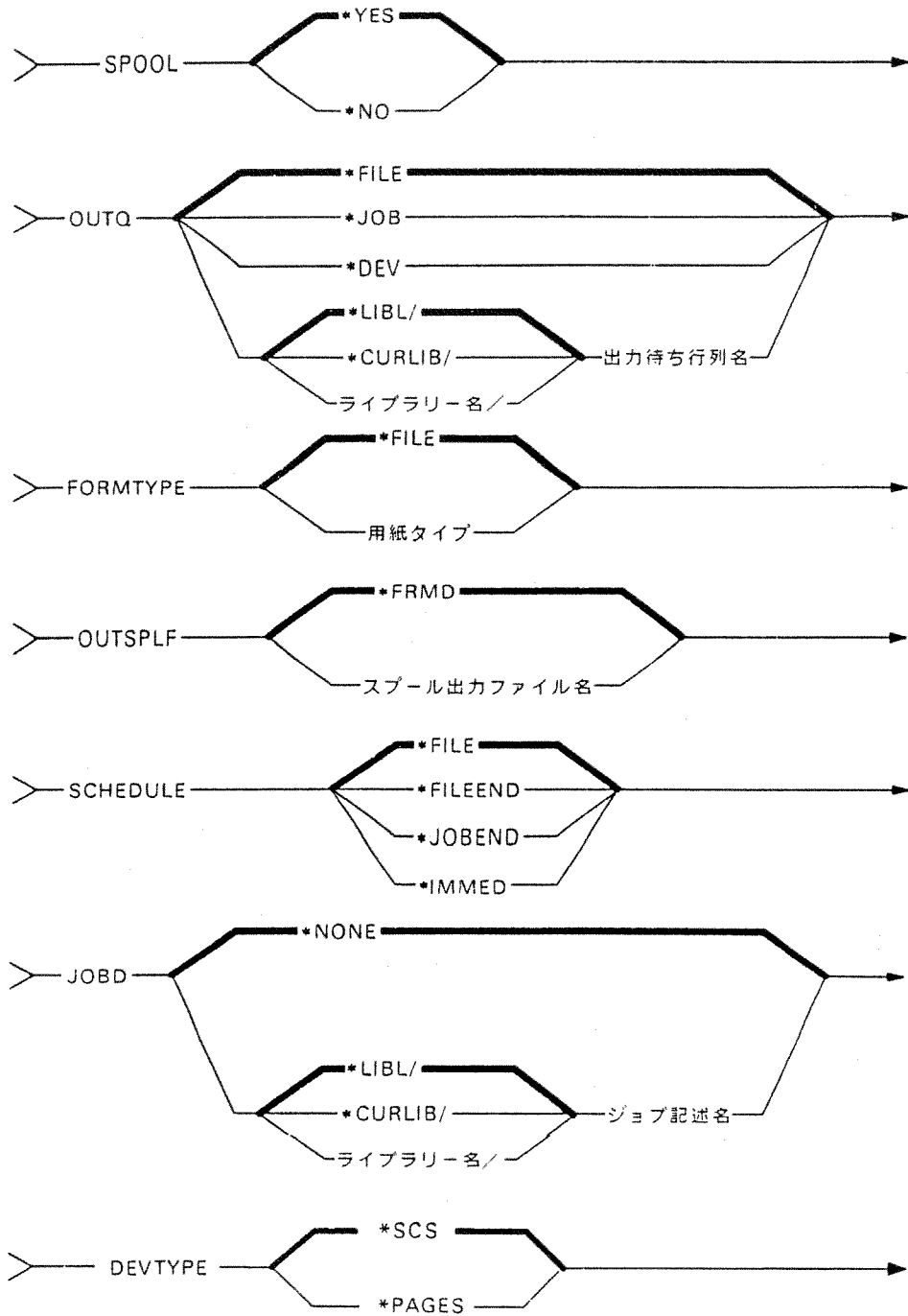
## 5.1 MRGAPW (書式合成) コマンド

印刷装置への出力には、MRGAPWコマンドを使用します。ここでは、コマンド構文図、コマンド・パラメーター、コマンドの入力について説明します。

### コマンド構文図

MRGAPWコマンドの構成は、下図に示すとおりです。





ジョブ：B.1 プログラム：B.1

## コマンド・パラメーター

ここでは、構文図に出ているコマンド・パラメーターについて説明します。(文中で下線が引かれた値が省略時の値です。)

<b>FORMD</b> パラメーター:	書式合成に使用する書式名を指定します。
* <u>SELECT</u> :	書式名に*SELECTを指定した場合、FILEパラメーターで指定された書式一覧表が表示されます。合成に使用する書式をこの書式一覧表から選択してください。
* <b>NONE</b> :	書式を使用しないことを示します。この場合、ユーザー・データのみが印刷されます。
書式名:	書式合成に使用する書式名を指定します。
<b>FILE</b> パラメーター:	書式合成に使用する書式の入っている物理ファイルの名前を指定します。
書式ファイル名:	書式が入っている物理ファイル名を指定します。物理ファイル名は、そのファイルが入っているライブラリー名で任意に修飾できます。修飾されていない場合、ライブラリー・リスト(*LIBL)を使用してそのファイルを見つけます。
<b>SPLF</b> パラメーター:	印刷するユーザー・データの入っているスプール・ファイルを指定します。
* <u>NONE</u> :	書式合成時にスプール・ファイルを使用しないことを示します。この場合、APWは、書式のみを印刷します。
スプール・ファイル名:	印刷するユーザー・データの入っているスプール・ファイルを指定します。スプール・ファイルは、次のJOBパラメーター、およびSPLNBRパラメーターで修飾されます。
<b>JOB</b> パラメーター:	印刷するスプール・ファイルを作成したジョブ名を指定します。
*:	現在操作を行っているジョブと同じであることを示します。
ジョブ名:	現在操作を行っているものとは別のジョブである場合は、そのジョブ名を指定します。ジョブ名は、ユーザー名とジョブ番号で修飾されます。

<b>SPLNBR</b> パラメーター:	スプール・ファイル番号を指定します。
* <b>LAST</b> :	最後に出力された（最も大きな番号を持つ）スプール・ファイルを使用することを示します。
* <b>ONLY</b> :	SPLFパラメーターで指定したスプール・ファイルが1つしかないことを示します。2つ以上存在する場合は、エラー・メッセージが表示されます。
スプール・ファイル番号:	上述のいずれでもない場合、そのスプール・ファイルの番号を指定します。
<b>PAGE</b> パラメーター:	印刷開始ページ番号を指定します。
開始ページ番号:	指定しない場合は、最初のページから印刷を開始します。
<b>COPIES</b> パラメーター:	スプール出力の場合、コピー枚数を指定できます。
コピー枚数:	指定しない場合は、コピー枚数が1と見なされます。
<b>DEV</b> パラメーター:	出力する印刷装置記述名を指定します。DEVパラメーターは、次のSPOOLパラメーターで*NOが指定されているときのみ有効です。
* <b>FILE</b> :	出力装置はAPW用印刷装置ファイルに指定されている印刷装置記述名と同じであることを示します。
* <b>JOB</b> :	現ジョブに割り当てられた印刷装置に出力します。
* <b>SYSVAL</b> :	システム値に設定された印刷装置に出力します。
出力装置名:	出力する印刷装置記述名を指定します。
<b>SPOOL</b> パラメーター:	印刷装置に直接出力するか、スプール出力するかを指定します。
* <b>YES</b> :	スプール出力をします。
* <b>NO</b> :	印刷装置に直接出力します。これを指定するとき、DEVTYPEパラメーターは*SCSでなければなりません。

<b>OUTQ</b> パラメーター:	スプールの出力待ち行列名を指定します。
* <b>FILE</b> :	出力待ち行列は、APW用印刷装置ファイルに指定されている出力待ち行列と同じであることを示します。
* <b>JOB</b> :	現ジョブに割り当てられた出力待ち行列であることを示します。
* <b>DEV</b> :	QUSRSYSライブラリー内の印刷装置と同じ名前の出力待ち行列であることを示します。
出力待ち行列名:	* <b>FILE</b> 、* <b>JOB</b> 、* <b>DEV</b> でない場合は、特定の名を指定します。出力待ち行列名は、その待ち行列が入っているライブラリーの名前で任意に修飾することができます。特定の指定がない場合は、ライブラリー・リスト(* <b>LIBL</b> )を使用してその待ち行列を見つけます。
<b>FORMTYPE</b> パラメーター:	スプール・ファイルの出力に使用する用紙の用紙識別名を指定します。
* <b>FILE</b> :	用紙は、APW用印刷装置ファイルに指定されている用紙識別名と同じ識別名であることを示します。
用紙タイプ:	このスプール・ファイルが出力される用紙の識別名を指定します。
<b>OUTSPLF</b> パラメーター:	出力するスプール・ファイルにつける名前を指定します。
* <b>FRMD</b> :	スプール・ファイルの名前は、書式名と同じであることを示します。書式を使用していない場合は、使用するAPW用印刷装置ファイルと同じ名前がつけられます。
スプール出力ファイル名:	出力するスプール・ファイルにつける名前を指定します。
<b>SCHEDULE</b> パラメーター:	出力ファイルがスプール書き出し機能で使用可能になる時期を指定します。
* <b>FILE</b> :	使用可能時期は、APW用印刷装置ファイルに指定されているものと同じです。
* <b>FILEEND</b> :	スプール出力ファイルは、APWがクローズした直後からスプール書き出し機能で使用可能となります。
* <b>JOBEND</b> :	スプール出力ファイルは、ジョブ全体が完了した後でのみスプール書き出し機能で使用可能となります。

<b>*IMMED:</b>	スプール出力ファイルは、APWがオープンした直後からスプール書き出し機能で使用可能となります。
<b>JOBIDパラメーター:</b>	書式合成を他のジョブで実行する場合、そのジョブ記述名を指定します。
<b><u>*NONE:</u></b>	書式合成を他のジョブで実行しないことを示します。
<b>ジョブ記述名:</b>	実行するジョブ記述名を指定します。ジョブ記述名は、そのジョブ記述名の入っているライブラリー名で修飾できます。修飾されていない場合は、ライブラリー・リスト(*LIBL)を使用してそのジョブ記述名を見つけます。
<b>DEVTYPEパラメーター:</b>	出力するスプール・ファイルに使用されるデータ・ストリームのタイプを指定します。
<b><u>*SCS:</u></b>	SNA文字ストリング(SCS)データ・ストリームが使用されます。
<b>*PAGES:</b>	ASCIIデータ・ストリームが使用され、スプール待ち行列に入れられます。

詳細については、11-2ページの11.5、『印刷装置タイプ別の考慮点』を参照してください。

## コマンドの入力

MRGAPWコマンドは、次のいずれかの方法で使用してください。

- コマンド入力行、またはプログラマー・メニューで項目番号5を選択後、パラメーター付きのコマンド全体を入力する。
- MRGAPWと入力しF4キーを押してコマンド・プロンプトを要求する。
- 「APWメニュー」で項目番号2を選択してコマンド・プロンプトを要求する。

## コマンド全体の入力例

下図は、コマンド入力行で、すべてのパラメーターの値を含むコマンド全体の入力例を示したものです。

MAIN	AS/400 メイン・メニュー	システム : XXXXXXXX
次の中から1つを選んでください。		
1. ユーザー・タスク 2. オフィス・タスク 3. 汎用システム・タスク 4. ファイル、ライブラリー、およびフォルダー 5. プログラミング 6. 通信 7. システムの定義または変更 8. 問題処理 9. メニューの表示 10. 情報援助オプション 11. PC サポート・タスク  90. サイン・オフ		
選択項目またはコマンド ==> MRGAPW FORMD(FEATURE) FILE(USERLIB/FROMFILE) SPLF(*NONE)		
F3= 終了    F4= プロンプト    F9= コマンドの複写    F12= 取消し    F13= 情報援助 F23= 初期メニューの設定		

コマンド入力後、実行キーを押してください。

## コマンド・プロンプトによるコマンドの入力例

コマンド入力行からMRGAPWと入力後F4キーを押した場合、または「APWメニュー」で項目番号2を選択した場合、次のプロンプトが表示されます。パラメーターの値は、コマンド入力行などから表示した場合は所定の省略時の値を示し、「APWメニュー」から表示した場合は最後に使用したときの値が表示されます。

書式合成 (MRGAPW)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください、		
書式	*SELECT	名前 , *NONE, *SELECT
書式ファイル	> FROMFILE	名前
ライブラリー	> USERLIB	名前 , *LIBL, *CURLIB
スプール・ファイル	> *NONE	名前 , *NONE
ジョブ	*	名前 , *
ユーザー		名前
番号		000000-999999
スプール番号	*LAST	1-999999, *LAST, *ONLY
開始ページ番号	1	1-99999
コピー枚数	1	1-99
出力装置	*FILE	名前 , *FILE, *JOB, *SYSVAL
スプール出力	*YES	*YES, *NO
出力待ち行列	*FILE	名前 , *FILE, *JOB, *DEV
ライブラリー		名前 , *LIBL, *CURLIB
用紙タイプ	*FILE	文字値 , *FILE
スプール出力ファイル	*FRMD	名前 , *FRMD
続く ...		
F3= 終了    F4= プロンプト    F5= 再表示    F12= 取消し    F13= この画面の使用法 F24= キーの続き		



前ページの画面で書式名として\*SELECTを指定した場合、下図のような「書式一覧表」が表示されます。この画面で、書式ファイル中のどの書式を印刷するかを選ぶことができます。書式は、F17キーを押すと変更日順に、F18キーを押すと書式名順に表示順序が変わります。

注: この画面からは、書式や書式ファイルを削除することはできません。

書式一覧表

ファイル.....: FORMFIL      ライブラリー....: USERLIB

オプションを入力し、実行キーを押してください。  
4- 書式の削除

OPT	書式名	用紙長	幅	長さ	CPI	IGCPI	LPI	SO/SI	変更日
-	TEST1	110	132	66	10	5	6	*YES	04/28/92
-	TEST2	110	132	66	10	5	6	*YES	04/28/92
-	TEST3	110	132	66	10	5	6	*YES	04/28/92

終り

コマンド

---

F3= 終了      F9=マントの複写      F10= ファイルの削除      F11= 他項目の表示  
F12= 取柄し      F17= 変更日順      F18= 書式名順

書式一覧表を使用する場合は、コマンド入力行またはプログラマー・メニューからコマンドを入力した場合と、「APWメニュー」からMRGAPWコマンド・プロンプトを表示した場合で、操作が次のように異なります。

- 「APWメニュー」を使用していない場合:書式一覧表で選択した書式を使用してただちに書式合成が行われます。
- 「APWメニュー」から書式合成を行っている場合:書式一覧表で選択した書式の名前がプロンプトに表示されます。再度実行キーを押してMRGAPWコマンドを実行してください。

---

## 5.2 書式の印刷

MRGAPWコマンドで、スプール・ファイル名(SPLFパラメーター)を\*NONEに指定すると、書式のみが印刷されます。この機能によって、作成した書式の固定文字、罫線などが正しく印刷されているかどうかを確認できます。

---

## 5.3 ユーザー・データの印刷

MRGAPWコマンドで、書式名(FORMDパラメーター)を\*NONEに指定すると、ユーザー・データのみが印刷できます。

この場合、書式で指定する印刷機能は次の値がとられます。

SBCS文字間隔: スプール・ファイルに指定した文字間隔

DBCS文字間隔: SBCS文字間隔の半分の文字間隔

行間隔: スプール・ファイルに指定した行間隔  
(ただしAPWが許容しないlpiが指定されていた場合は、6 lpiとなる)

書式幅: スプール・ファイルに指定したユーザー・データの幅

書式長: スプール・ファイルに指定したユーザー・データの長さ

SO/SI制御文字: ブランク文字

## 5.4 印刷ページ

書式とユーザー・データを合成して印刷する場合、APWは、次の規則で印刷ページを決定します。

- ユーザー・データから、書式の書式長分のデータを取り出し、1ページとして印刷します。
- 書式の書式長がユーザー・データの長さより短い場合は、書式の書式長を越えたユーザー・データは切り捨てられます。この場合、ユーティリティーにより、エラー・メッセージが出されます。

ユーザー・データ

書式

印刷装置

ユーザー・データ	書式	印刷装置
1ページ		
印刷されない		
2ページ		
印刷されない		
3ページ		

- MRGAPWコマンドで書式が指定されていない場合は、ユーザー・データの長さ分のデータを1ページとします。

ユーザー・データの幅と書式幅は、なるべく一致させてください。一致していないと、印刷位置が書式幅を超えたときに行送りされる結果、文字が正しく印刷されなかったり、先頭行の印刷位置がずれてしまうことがあります。また、場合によっては、エラーになり、印刷が中断することもあります。

たとえば、ページのDBCS文字間隔を6.7 cpiとし、SO制御/SI制御文字を印刷しないように指定すると、書式幅132では、漢字は最高で88文字(176 バイト)まで1行に印刷できますが、印刷機能指定による桁・アライメント(「3-57ページの『自動カラム・アライメント』を参照)が行われると、1行に印刷されず、行送りされたり、エラーになったりします。

漢字を詰めて書式幅より広く印刷するときは、その行にCPI, IGCCPI, MAGNIFYの印刷機能を指定しないようにしてください。

## 5.5 書式の変更

ユーザー・データを印刷するときに、2種類以上の書式を使用する場合は、書式変更データ(CHGMRGデータ)をユーザー・データの中に入れることができます。書式変更データは他のCLコマンドと同じような形式で記述しますが、ユーザー・データ中のデータとしてのみ使用できることに注意してください。

### CHGMRGデータの構文図

CHGMRGデータは、APWの内部だけで使用され、以下のような構文でできています。

```
CHGMRG FORMD(書式名)
```

```
FILE(ライブラリー名/書式ファイル名)
```

**FORMD**パラメーター:

変更後印刷する新しい書式名を指定します。

**FILE**パラメーター:

上記で指定した書式が入った書式ファイル名を指定します。

## CHGMRGデータの例

CHGMRGデータは、ユーザー・データのどこにあってもかまいませんが、スプールに入れる場合は、次のことに注意してください。

- CHGMRGデータは、ページの切れ目になければなりません。
- CHGMRGデータであることを示すために、データの1桁目～7桁目は、'CHGMRG'でなければなりません。
- パラメーターは、すべて記述しても1種類だけ記述してもかまいませんが、同じパラメーターを2度以上指定することはできません。たとえば、次の例は、すべてエラーになります。

```
CHGMRG FORMD(FORM001) FILE(USERLIB/FORMFILE) FORMD(FOM001)
CHGMRG FORMD(FORM001) FILE(USERLIB/FORMFILE) FILE(USERLIB/FORMF)
```

- 書式名(FORMDパラメーター)には、既存の書式名または\*NONEが指定できます。書式ファイルは、CHGMRGデータにFILEパラメーターが指定されている場合はそのファイルを、指定されていない場合は直前に使用されていたファイルが使われます。次の例を参照してください。

```
CHGMRG FORMD(FORM001)
CHGMRG FORMD(FORM001) FILE(USERLIB/FORMFILE)
```

- 書式ファイル名(FILEパラメーター)には、既存の書式ファイル名が指定できます。また、書式ファイル名は、そのファイルが入っているライブラリー名で任意に修飾できます。書式ファイル名が修飾されていない場合には、直前に使用されていたライブラリーからそのファイルを見つけます。次の例を参照してください。

```
CHGMRG FORMD(FORM001) FILE(USERLIB/FORMFILE)
CHGMRG FORMD(FORM001) FILE(FORMFILE)
CHGMRG FORMD(FORM001) FILE(*LIBL/FORMFILE)
```

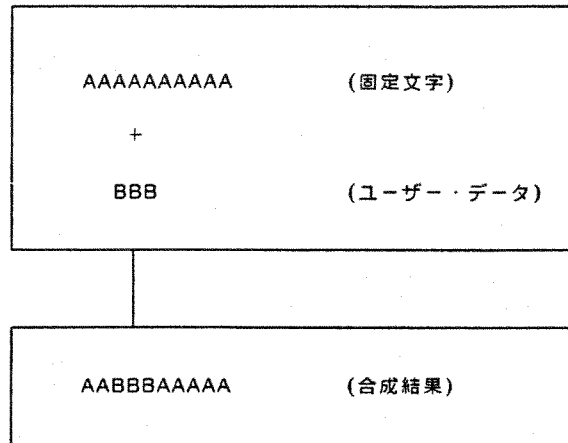
注: ライブラリー名として\*CURLIBは指定できません。

## 5.6 書式とユーザー・データの重複

書式合成時に、書式中の固定文字とスプール・ファイル中のユーザー・データが重複した場合は、常にユーザー・データが優先されます。この場合、書式の固定文字がSBCS文字かDBCS文字かによって、合成の方法が異なります。

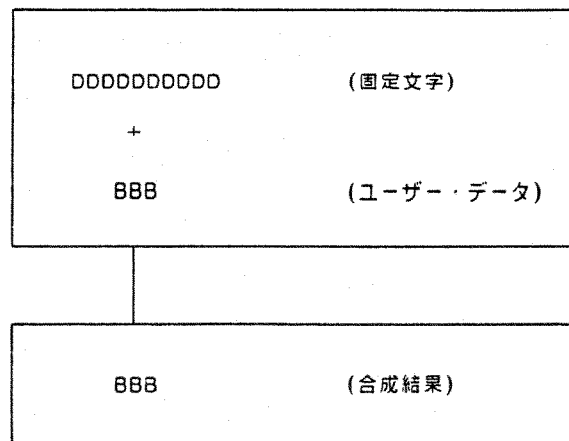
- 固定文字がSBCS文字の場合

固定文字のユーザー・データと重複している部分のみが捨てられます。たとえば、'A'を書式の固定文字(SBCS文字)、'B'をユーザー・データ(SBCS文字またはDBCS文字)とした場合、以下のような合成結果が得られます。



- 固定文字がDBCS文字の場合

固定文字のユーザー・データと重複しているDBCSフィールドは、すべて無視されます。たとえば、'D'を書式の固定文字(DBCS文字)、'B'をユーザー・データ(SBCS文字またはDBCS文字)とした場合、以下のような合成結果が得られます。





## 第6章 APWの書式の処理

APWの書式の処理機能を使用して、ファイルの中の書式一覧表（リスト）を見ることがができます。このリストから次のような処理を行うことができます。

1. 書式の作成
2. 書式の印刷機能の変更
3. 書式のコピー
4. 書式の削除
5. 書式の印刷機能の表示
6. 書式の合成
7. 書式一覧表の印刷

注: DFLAPW(書式一覧表表示)コマンドの代わりに、APWの書式の処理を使用して下さい。

### 6.1 APWの書式の処理画面の使用方法

APWの書式の処理画面を表示するには、多機能漢字印刷ユーティリティーのメニュー画面で、3を選択して実行キーを押して下さい。次の画面が表示されます。

APWの書式の処理

選択項目を打鍵して、実行キーを押して下さい。

書式ファイル	.....	<u>APWFILE</u>	名前
ライブラリー	.....	<u>APWLIB</u>	名前、 *LIBL、 *CURLIB
書式	.....	<u>*ALL</u>	名前、 *ALL、 総称 *

F3= 終了    F5= 再表示    F12= 取消し

次の情報を各プロンプトに入力して下さい。

書式ファイル・プロンプト:

処理したい書式が入っているファイル名を打鍵して下さい。

ライブラリー・プロンプト:

処理したい書式を含む書式ファイルが入っているライブラリー名を打鍵して下さい。次のものがこのプロンプトに対して指定できます。

ライブラリー名: 処理したい書式を含む書式ファイルが入っているライブラリー名を打鍵して下さい。

\*LIBL: ジョブのライブラリー・リストの中で、書式ファイル・プロンプトに指定されたファイルを含んでいる最初のライブラリーが使用されます。

\*CURLIB: ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合は、QGPLライブラリーが使用されます。

書式・プロンプト:

処理したい書式の名前または、ファイルの中の書式のサブセット基準を指定して下さい。

次のものがこのプロンプトに対して指定できます。

書式名: 処理したい書式の名前を指定して下さい。

\*ALL: 指定した書式ファイルの中の書式すべてを意味します。

総称\*(総称名): アスタリスク(\*)で修飾された書式の部分名を指定して下さい。同じ部分名を持つ書式が画面に表示されます。

これらの情報を打鍵してから実行キーを押して下さい。次の画面が表示されます。

APWの書式の処理

書式ファイル..... APWFILE      書式..... ALL  
ライブラリー..... APWLIB      位置指定..... \_\_\_\_\_

オプションを打鍵して、実行キーを押して下さい。  
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示 9=合成

OPT	書式名	用紙長	幅	長さ	CPI	IGCPI	LPI	変更日
-	APWLS01	110	132	66	10	5	6	04/29/92
-	APWLS02	110	132	66	10	5	6	04/27/92
-	APWLS03	110	132	66	10	5	6	04/28/92

終り

オプション1, 9のパラメーターまたはコマンド

---

F3=終了 F4=アウプト F5=再表示 F6=リストの印刷 F9=コマンドの複写  
F11=他項目の表示 F12=取消し F17=変更日順

画面上部のライブラリー、書式ファイル、そして書式プロンプトを変更することにより、リストの内容を変更することができます。

位置指定のプロンプトに、書式名またはその部分名を指定することにより、リストの表示位置を変更することができます。リストは、指定されたストリングで始まる最初の書式名に位置指定されます。

## 機能キーの使用方法

つぎの機能キーをAPWの書式の処理画面で使用してください。

F3: 終了

多機能漢字印刷ユーティリティのメニューにもどります。

F4: プロンプト

オプション1 (CRTAPWコマンド)、オプション9 (MRGAPWコマンド) またはコマンド・ライン上に打鍵されたコマンドのプロンプト画面を表示します。

F5: 再表示

表示されている画面を、最新の情報とともに再表示します。

- F6: リストの印刷  
書式のリストを印刷します。このとき、リストのサブセットは画面上部で指定したサブセット基準と同じです。
- F9: コマンドの複写  
最後にコマンド・ラインから入力したコマンドを表示します。
- F11: 項目の表示  
次のようにリスト中の書式の他の情報を表示します。

APWの書式の処理

書式ファイル . . . . . APWFILE      書式 . . . . . =ALL  
ライブラリー . . . . . APWLIB      位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_

オプションを打鍵して、実行キーを押して下さい。  
1= 作成   2= 変更   3= コピー   4= 削除   5= 表示   9= 合成

OPT	書式名	原始 ライブラリー/ファイル	メンバー	テキスト
-	APWLS01	APWSRCLIB /FORMSRC	APWLS01	サンプル
-	APWLS02	APWSRCLIB /FORMSRC	APWLS02	注文 リスト
-	APWLS03	APWSRCLIB /FORMSRC	APWLS03	住所 リスト

終り

オプション1, 9のパラメーターまたはコマンド  
====>

---

F3= 終了   F4=プロンプト   F5= 再表示   F6=リストの印刷   F9=コマンドの複写  
F11= 他項目の表示   F12= 取消し   F17= 変更日順

- F12: 取消し  
前の画面に戻ります。
- F17: 変更日順、書式名順  
書式を分類する方法を変更します。現在の分類方法が書式名順の場合、この機能キーを一度押すことにより分類方法が最終変更日順に変更されます。再び押すことにより書式名順になります。  
次の画面は最終変更日順に書式リストが分類されている例です。

APWの書式の処理

書式ファイル..... APWFILE      書式..... ALL  
 ライブラリー..... APWLIB

オプションを打鍵して、実行キーを押して下さい。

1= 作成    2= 変更    3= コピー    4= 削除    5= 表示    9= 合成

OPT	書式名	用紙長	幅	長さ	CPI	IGCPI	LPI	変更日
-	APWLS01	110	132	66	10	5	6	04/29/92
-	APWLS03	110	132	66	10	5	6	04/28/92
-	APWLS02	110	132	66	10	5	6	04/27/92

終了

オプション1、9のパラメーターまたはコマンド

\*\*\*>

F3= 終了    F4=アウプト    F5= 再表示    F6=リストの印刷    F9=コマンドの複写  
 F11= 他項目の表示    F12= 取消し    F17= 書式名順

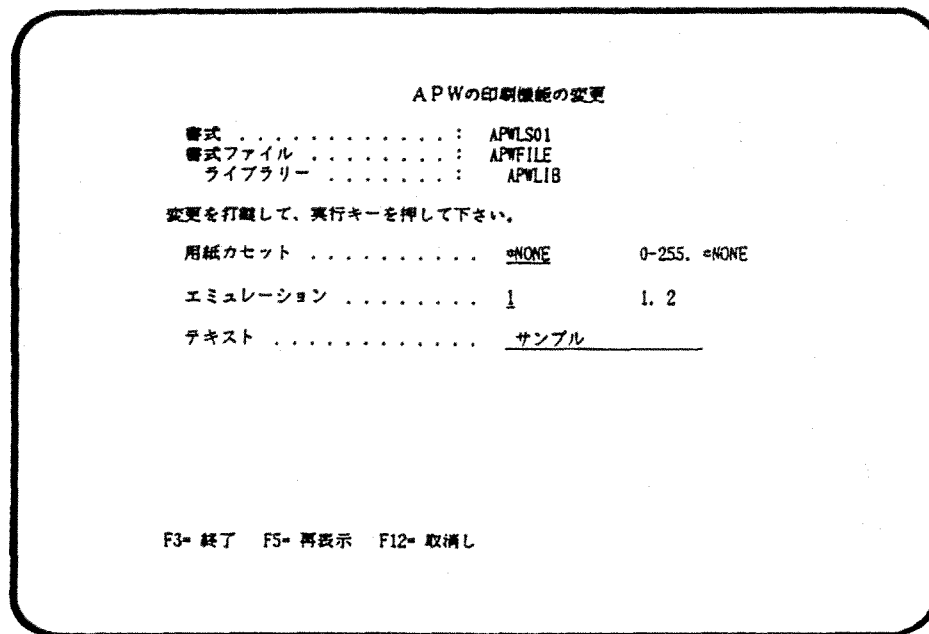
## オプションの使用方法

次のオプションが選択できます。

- 1= 作成      新しい書式を作成します。書式リスト最上部の書式名の欄に、作成する書式の名前を打鍵して下さい。CRTAPWコマンドのプロンプトが表示されます。(詳しくは3-2ページの3.1.『CRTAPW (書式作成) コマンド』を参照して下さい)
- 2= 変更      既存の書式を変更します。
- 3= コピー    既存の書式をコピーします。
- 4= 削除      既存の書式を削除します。
- 5= 表示      既存の書式の印刷機能の中でCRTAPWコマンドのパラメーターとして指定されたものを表示します。
- 9= 合成      書式とスプール・ファイルのデータをMRGAPWコマンドを使用して合成します。(詳しくは5-2ページの5.1.『MRGAPW (書式合成) コマンド』を参照して下さい)

## 6.2 印刷機能の変更

APWの書式の印刷機能の幾つかをAPWの印刷機能の変更画面を使用して変更することができます。APWの書式の処理画面で書式名の隣のOPT欄に2を指定し実行キーを押すと、次の画面が表示されます。



画面上部のライブラリー、書式ファイル、そして書式は印刷機能の変更をするために選択された名前です。

次の表はこの画面で変更することができる印刷機能とその有効な値を示しています。

用紙カセット	0-255 *NONE: 用紙カセットを使わない
エミュレーション	1または2 この印刷機能は、選択された書式にDRAWR.DRAWRC または AMIKAKE印刷機能が指定されていない場合には表示されません。
テキスト	テキストを入れてください。

それぞれの印刷機能の初期値は、選択された書式の現在値です。なお、使用にあたっては、ADDPFM(物理ファイル・メンバー追加)コマンドとRMVM(物理メンバー削除)コマンドの使用権が必要です。

### 6.3 書式のコピー

APWの書式をAPWの書式のコピー画面を使用してコピーすることができます。APWの書式の処理画面で、コピーしたい書式の隣のOPT欄に3を打鍵して下さい。複数の書式を一度にコピーできます。実行キーを押すと、次の画面が表示されます。

APWの書式のコピー

書式ファイル . . . . . : APWFILE  
ライブラリー . . . . . : APWLIB

書式の受入れファイル名とライブラリー名を打鍵して下さい。

受入れ書式ファイル . . . . . APWFILE 名前  
受入れライブラリー . . . . . APWLIB

コピー先の書式名を変更する場合は新書式名を打鍵して、実行キーを押して下さい。

書式	新書式名
APWLS01	<u>APWLS01</u>
APWLS02	<u>APWLS02</u>

F3= 終了 F5= 再表示 F12= 取消し

終り

注: 上の画面は2つの書式に対してコピー・オプションを指定した場合の例です。

次の表は画面上のプロンプトの説明です。

書式ファイル:	コピーもとの書式を含んでいるファイル名
ライブラリー:	コピーもとの書式ファイルを含んでいるライブラリー名
受入れ書式ファイル:	コピーされた書式を受入れる書式ファイル名
受入れライブラリー:	受入れ書式ファイルを含んでいるライブラリー名
書式:	コピーもとの書式名
新書式名:	新しくコピーされて作成される書式名

受入れライブラリー、受入れ書式ファイル、新書式名の各入力プロンプトは、コピーもとのそれぞれと同一の値を含んで表示されます。コピー先のプロンプトを変更して実行キーを押して下さい。なお、使用にあたっては、CPYF(ファイル・コピー)コマンドの使用権が必要です。

新書式名に指定された名前と同一名の書式またはメンバーが既に受入れ書式ファイルに存在する場合には、次の確認画面が表示されます。

APWの書式のコピー

```

書式ファイル . . . . . : APWFILE
ライブラリー . . . . . : APWLIB

書式の受入れファイル名とライブ
受入れ書式ファイル . . . . . :
受入れライブラリー . . . . . :
コピー先の書式名を変更する場合
書式      新書式名
APWLS01   APWCOPY1
APWLS02   APWCOPY2

```

書式コピーの確認

新書式名に指定した次のメンバーは、すでに存在しています。

```

メンバー . . . : APWCOPY1
ファイル . . . : APWFILE2
ライブラリー : APWLIB

```

既存のメンバーを削除し コピーを行うためには、実行キーを押してください。

コピー操作を取り消すためには、F12= 取消しを押してください。

F12= 取消し

F3= 終了 F5= 再表示 F12= 取

受入れファイル中の既存の書式またはメンバーを削除した後、新しい書式をコピーして作成する場合には、実行キーを押して下さい。ただし、RMVM(物理メンバー削除)コマンドの使用権が必要です。

既存の書式またはメンバーを新しい書式で置き換えたくない場合には F 1 2 キーを押してコピー処理を取り消して下さい。

## 6.4 書式の削除

APWの書式を削除するには、APWの書式の処理画面で、削除したい書式の隣のOPT欄に4を打鍵して下さい。

複数の書式を一度に削除できます。実行キーを押すと次の画面が表示されます。

書式削除の確認

```

ファイル . . . . . : APWFILE      ライブラリー . . . : APWLIB

```

削除の選択項目を確認後、実行キーを押して下さい。  
 選択項目を変更するためには、F12= 取消しを押して戻ってください。

OPT	書式名	用紙長	幅	長さ	CPI	IGCCPI	LPI	変更日
4	APWLS02	110	132	66	10	5	6	04/27/92
4	APWLS03	110	132	66	10	5	6	04/28/92

F11= 他項目の表示 F12= 取消し

終り

注: 上の画面は2つの書式に対して削除オプションを指定した場合の例です。

この画面上には、削除オプションが指定されたすべての書式が確認の為にリストされます。削除する書式名を確認後実行キーを押して下さい。書式が削除されます。もしリスト中に、削除したくない書式が存在する場合にはF12キーを押して、削除処理を取り消して下さい。なお、使用にあたっては、RMVM(物理メンバー削除)コマンドの使用権が必要です。

## 6.5 印刷機能の表示

APWの印刷機能の表示画面では、書式の印刷機能のうちで、作成時に原始メンバーによって指定されたもの以外の印刷機能を表示することができます。印刷機能を表示するためには、APWの書式の処理画面で、表示したい書式の隣のOPT欄に5を打鍵して下さい。実行キーを押すと、次の画面が表示されます。

```

                                A P W の 印 刷 機 能 の 表 示
書式 . . . . . : APWLS01
書式ファイル . . . . . : APWFILE
  ライブラリー . . . . . :   APWLIB
原始ライブラリー/ファイル . . . . . : APWSRCLIB /FORMSRC
原始メンバー . . . . . : APWLS01
用紙長 . . . . . : 110
書式幅 . . . . . : 132
書式長 . . . . . : 66
1インチ当たりのSBCS文字数 . . . . . : 10
1インチ当たりのDBCS文字数 . . . . . : 5
1インチ当たりの行数 . . . . . : 6
SO/SI . . . . . : *YES
フォント・スタイル . . . . . : *DFLT
文字セット . . . . . : *DFLT
用紙カセット . . . . . : *NONE
エミュレーション . . . . . : 1
印字方向 . . . . . : V
印刷位置制御 . . . . . : *USER
作成日 . . . . . : 04/29/92
                                続 く . . .
F3=終了  F12=取消し
```

```

                                A P W の 印 刷 機 能 の 表 示
最終変更日 . . . . . : 04/29/92
テキスト . . . . . : サンプル
                                終 り
F3=終了  F12=取消し
```



注:

1. 原始ライブラリー／ファイル、原始メンバーの項は、書式がバージョン2 リリース2 モディフィケーション0以前のAPWにより作成された場合、ブランクが表示されます。
2. エミュレーションの項は、書式にDRAWR、DRAWRCまたはAMIKAKEコマンドを使用していない場合、ブランクが表示されます。

## 6.6 書式リストの印刷

APWの書式の処理画面で表示中の書式のリストを印刷することができます。APWの書式の処理画面でF6キーを押して下さい。次のような形式で印刷されます。

書式リスト		ページ 1	
573BAP1 V2R3M0 YYMCD	多機能漢字印刷ユーティリティー (APW)	APWLIB /APWFILE	MM/DD/YY HH:MM:SS
書式ファイル . . . . .	: APWFILE	書式 . . . . .	: *ALL
ライブラリー . . . . .	: APWLIB		
書式 . . . . .	: APWLS01	原始ファイル . . . . .	: FORMSRC
用紙長 . . . . .	: 110	ライブラリー . . . . .	: APWSRCLIB
書式幅 . . . . .	: 132	原始メンバー . . . . .	: APWLS01
書式長 . . . . .	: 66	SO/SI . . . . .	: *YES
SBCS文字のCPI . . . . .	: 10	フォント・スタイル . . . . .	: *DFLT
DBCS文字のCPI . . . . .	: 5	文字セット . . . . .	: *DFLT
1インチ当たりの行数 . . . . .	: 6	用紙カセット . . . . .	: *NONE
印字方向 . . . . .	: *DEV	印刷位置制御 . . . . .	: *AUTO
作成日 . . . . .	: 04/29/93	エミュレーション . . . . .	: 1
最終変更日 . . . . .	: 04/29/93	テキスト . . . . .	: サンプル
書式 . . . . .	: APWLS02	原始ファイル . . . . .	: FORMSRC
用紙長 . . . . .	: 110	ライブラリー . . . . .	: APWSRCLIB
書式幅 . . . . .	: 132	原始メンバー . . . . .	: APWLS02
書式長 . . . . .	: 66	SO/SI . . . . .	: *YES
SBCS文字のCPI . . . . .	: 10	フォント・スタイル . . . . .	: *DFLT
DBCS文字のCPI . . . . .	: 5	文字セット . . . . .	: *DFLT
1インチ当たりの行数 . . . . .	: 5	用紙カセット . . . . .	: *NONE
印字方向 . . . . .	: *DEV	印刷位置制御 . . . . .	: *AUTO
作成日 . . . . .	: 04/27/93	エミュレーション . . . . .	:
最終変更日 . . . . .	: 04/27/93	テキスト . . . . .	: 注文 リスト
書式 . . . . .	: APWLS03	原始ファイル . . . . .	: FORMSRC
用紙長 . . . . .	: 110	ライブラリー . . . . .	: APWSRCLIB
書式幅 . . . . .	: 132	原始メンバー . . . . .	: APWLS03
書式長 . . . . .	: 66	SO/SI . . . . .	: *YES
SBCS文字のCPI . . . . .	: 10	フォント・スタイル . . . . .	: *DFLT
DBCS文字のCPI . . . . .	: 5	文字セット . . . . .	: *DFLT
1インチ当たりの行数 . . . . .	: 5	用紙カセット . . . . .	: *NONE
印字方向 . . . . .	: *DEV	印刷位置制御 . . . . .	: *AUTO
作成日 . . . . .	: 04/29/93	エミュレーション . . . . .	:
最終変更日 . . . . .	: 04/29/93	テキスト . . . . .	: 注文 リスト